

自然教育園の 10月に見ごろの植物



タイアザミ

武 水 路



フジバカマ

武



アワコガネギク

武



ガマズミ(実)

武



ヤマハッカ

武 路



キチジョウソウ

路 館



シロヨメナ

武 路



イヌショウマ

武 路



チャノキ

路



ホトギス

路



ユウガギク

武 水 路



ツリフネソウ

水



オオニガナ

水



アキノウナギツカミ

水



いきもの解説

タイアザミ

<8月下旬～12月上旬>

関東地方では最も普通のアザミです。「アザミ」の名は、古語でアザミの葉のようにちくちく痛いことを「あざむ」と言っていたことから転訛したものという説もあります。花の時期に地面から出る葉（根生葉）はありません。



フジバカマ

<9月中旬～10月下旬>

秋の七草のひとつ。葉を半乾きにする、桜餅の葉と同じクマリンの香りがあるため、古くから香水や浴用に利用されてきました。開発などにより自生地が減少し、環境省のレッドリスト（日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）では「準絶滅危惧」に指定されています。

アワコガネギク

<10月下旬～11月下旬>

黄色い花が泡のように集まって咲くことから名前がつけました。別名はキクタニギクで、自生していた京都を流れる菊谷川の上流地域「菊溪（きくたに）」にちなみます。



ガマズミ(実)

<9月下旬～12月下旬>

赤い実を鳥が食べてタネが運ばれます。ガマズミの果肉には芽が出ないようにする物質が含まれていて、鳥のおなかの中で果肉をきれいにはがされたタネだけが芽を出す仕組みになっています。親木の下で芽生えて競争になることを避ける「植物の知恵」です。

ヤマハッカ

<9月下旬～10月中旬>

ハッカの名前がついていますが、香りはほとんどありません。花は紫色で小さく、上下の二片に分かれた唇形です。



シロヨメナ

<10月上旬～11月上旬>

山の木陰で見られる、白い野菊の代表選手です。



キチジョウソウ

<10月下旬～11月中旬>

吉祥草（キチジョウソウ）の名前は、「めったに花が咲かず、咲けば植えてある家に吉事がある」という言い伝えによりですが、園では毎年花を咲かせています。

チャノキ

<10月上旬～12月中旬>

ツバキの仲間です。日本には奈良時代に中国から入り、はじめは薬用として利用されました。鎌倉時代以降は盛んに栽培され、日本各地で野生化しています。



ユウガギク

<8月中旬～11月上旬>

秋の野菊のひとつ。柚香菊（ユウガギク）の名前は、柚子の香りがあるためとも言われています。

イヌショウマ

<9月下旬～10月中旬>

試験管ブラシのような花の穂に、小さな花をびっしりつけます。つぼみはほんのりピンク色で、花の白色との対比が綺麗です。



ツリフネソウ

<9月下旬～10月中旬>

湿地によく群生します。名前は、花の形が帆掛け舟をつり下げたように見えることによりです。熟した果実を触ると、パチンと弾けてタネを飛ばします。

ホトトギス

<10月上旬～10月下旬>

鳥のホトトギスの胸の模様似た赤い斑点があることが名前の由来。花が美しいため庭にもよく栽培されます。



オオニガナ

<10月下旬～11月上旬>

水生植物園で大きな黄色い花がよく目立ちます。山地の湿原にまれに生え、東京都では絶滅危惧種となっています。

ジョロウグモ

赤、黒、黄色の複雑な模様でよく目立ちます。メスはオスの約3倍もの大きさです。雅やかな姿を、江戸時代の大奥の高位の職名である「上臈（じょうろう）」になぞらえたことが名前の由来と言われています。

全域で
みられる



アキノウナギツカミ

<9月下旬～10月下旬>

茎に下向きの短い刺があり、「ウナギでもつかめる」という意味から名前がつけました。ピンク色の可愛い花を咲かせます。